

フォーラムが開幕！！

この報告は、7名の学生サポーターとフレンテみえ企画・運営サポーターが作成しました。



男女共同参画フォーラム～みえの男女(ひと) 2009～が開幕しました。テーマは「一人ひとりの働き方、生き方」。1日目は4つのワークショップが設けられ、各分野において、“働き方”をテーマにそれぞれの参加者同士で熱い話し合いがなされました。

全体会

「三重県における男女共同参画の10年の軌跡」

主催：三重県生活・文化部 男女共同参画・NPO 室

フォーラムの皮切りとなる全体会では、三重県生活・文化部男女共同参画・NPO 室の亀井敬子室長が、三重県と全国とのデータを比較し、最新の意識調査を用いて男女共同参画社会の形成の状況について解説しました。

「男女共同参画の理念の実現状況は 10 年前より前進した」と考える人が多い一方で「男は仕事、女は家庭」との性別による固定的役割分担意識は依然根強いとのデータが示されました。



「女性の社会進出は、少子高齢化により今後深刻になる労働力不足の解決策」と強調し、「単なる知識の定着から、実践的な活動を通じて男女共同参画を推進するという第2ステージへのステップアップを目標に、社会・地域づくりとしても県民とともに取り組みたい」と語りかけました。(参加者94人)

☆☆ワークショップからの報告☆☆

1 子育てしながら働くママ、パパへの応援メッセージ!

講師: 上田理恵子さん
(株式会社マザーズネット代表取締役社長)
主催: 三重県健康福祉部
こども局こども未来室

○ 参加者 34名
セミナー室C

「働く母親の支援に一生をささげたい」。上田さんはしなやかに生きる先輩に憧れ、仕事を続ける道を選択しましたが、子どもの保育所入所の際に大変苦勞をされました。そこからワーキングマザーを支援する会社の創業に至ったお話は、その軽快なトークもあって会場は引き込まれました。

働く女性が本当に困ったときに役に立つサービスを提供したいと奮闘する上田さんは、「自分にとって何が大切か常に考え、仕事と育児のベストバランスを見つけること」また、「子どものためにも親自身が将来の夢を描くこと」が大切と強調されました。



2 農業・農村で一人ひとりの能力を活かそう

主催: 三重県農村女性アドバイザーネットワーク
三重県農水商工部 農業経営室
三重県中央農業改良普及センター

○ 参加者 37名
セミナー室B

農業は現在厳しい状況におかれています。その中でも“農業の楽しさ”とは何かみつめ直そうとまずお話がありました。その後、三重県農村女性アドバイザーの活動紹介と4グループに分かれて、若い世代に農業の楽しみを知ってもらう等、これからの活動につながる意見交換を行いました。

それぞれのグループごとに農業にどんな楽しさがあるのか、農業を楽しむためにどのような行動ができるのかについての話題提供や、農業の良さを後継者に伝え、育てることへの話し合いが進められ、今後の活動への情報交換の機会となりました。



3 「日本まんなか共和国男女共同参画研究・交流会～2009 滋賀～」に参加しました!

主催: 三重県生活・文化部
男女共同参画・NPO 室

○ 参加者 12名
特別会議室

日本まんなか共和国とは、滋賀県、岐阜県、福井県、三重県の四県で構成されており、四県の連携をさらに進めるために、さまざまな連携事業が行われています。今回はその一環として行われた「日本まんなか共和国男女共同参画研究・交流会～2009 滋賀～」の参加報告や、そこで三重県グループが考えた「パパを狙いうちっ!!」という事業案について参加者の視点からワークショップが行われました。課題・課題解決方向・具体的な取組などの意見を書き出すことによって、参加者同士が新たな視点や発想を得られるワークとなりました。



4 働き抜いた三重の女性たち

主催: 三重の女性史研究会

○ 参加者 46名
セミナー室A

5年の歳月を経て、刊行された『三重の女性史』。ワークショップは「女性が働くこと」に焦点を絞って行われました。調査を担当した方の刊行に至るまでの調査活動などが苦勞話を交えながら語られ、参加者の理解と共感を呼ぶものとなりました。また、紡績工場で女性工員による「生活を記録する会」を発足させた澤井余志郎さんが講演され、「彼女たちの活動は女性工員の地位向上や生活改善に影響を与えたが県内であまり知られていない『三重の女性史』に載ることでやっと“三重で働いた女性”として知られるようになっていった」と語られました。



取材: フレンテみえ記者クラブ(学生): 浦、大原、加納、鈴木、竹島、中島、松岡